

発行

博物館だより

富士吉田市歴史民俗博物館

〒403

山梨県富士吉田市上吉田2288-1

☎ 0555-24-2411

平成7年3月31日

〈資料紹介〉 「富士講の御身拔」



おみぬき
『御身抜』は富士講（富士山を信仰する団体の総称）の本尊ともいえるべき信仰の拠り所で祭壇の中心にこの御身抜を飾ります。中興の祖である食行身禄は仏像などを拝することを「影願」といって像の崇拝を認めませんでした。御身抜とはちょっと奇妙な感じの言葉ですが、この意味は身の中から抜き出したものということで、修行者が大行をなし遂げたとき、自分のなかに充実した気を文字にあらわしたものです。言わば、修行者の力の分身でもあったわけです。

御身抜は軸装になっており、富士講の祭壇にはこの御身抜のほかに二本の軸を並べ掲げます。これを「御三幅」といい、中央に御身抜、左に富士山の祭神である木花咲耶姫の御影、右に小御獄を掲げます。御身抜は神よりも上

僕 <small>は</small>	齋 <small>ち</small>
参明 <small>さんみょう</small>	南 <small>な</small>
藤開山 <small>とうかいさん</small>	南 <small>な</small>
天 <small>てん</small>	無 <small>む</small>
天 <small>てん</small>	仙 <small>せん</small>
南 <small>な</small>	元 <small>げん</small>
無 <small>む</small>	大 <small>だい</small>
長 <small>ちやう</small>	日 <small>にち</small>
日 <small>にち</small>	鬼 <small>き</small>
月 <small>げつ</small>	王 <small>おう</small>
光 <small>こう</small>	王 <small>おう</small>
仏 <small>ぶつ</small>	王 <small>おう</small>
大 <small>だい</small>	万 <small>まん</small>
大 <small>だい</small>	大 <small>だい</small>
我 <small>が</small>	我 <small>が</small>
者 <small>しや</small>	者 <small>しや</small>

位にあり信仰の中心でした。そして祭壇に拝されるだけではなく、登山の際にもこの御三幅を背負い、山頂で飾り拝みをあげます。

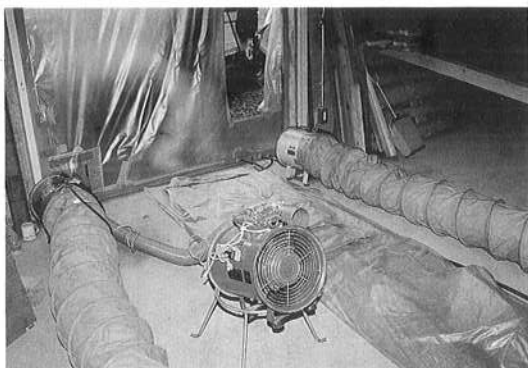
御身抜には流派によって違いがあります。元祖長谷川角行から六世村上光清の系統は、それぞれが多様なスタイルで記すのに対し、身禄派は「五行身抜」という決まった形をとります。この写真の御身抜は、身禄が元禄から享保にかけて考案した形式とされています。

御身抜に書かれた文は、角行が修行中に仙元大日神から伝えられたとされるもので、この文の中に信仰が凝縮されているといえます。文の解釈については様々な説があります。“ざとり”を開けなければ本当のところの意味は判らないのかもしれない。

WORKING AT MUSEUM ～博物館の仕事から

くんじょう 施設・資料の燻蒸

博物館の仕事というと皆さんはどのようなことを思い浮かべますか。一見、見学に来る来館者をただ待っているように思われがちですが、中には実に様々な仕事が行われています。今回は施設・資料の燻蒸を紹介します。



〔燻蒸に使用する機材〕

燻蒸作業は、博物館で収蔵している貴重な資料をカビや害虫から守り、永年にわたって保存していくために行うものです。その方法は、対象とする施設・資料の周囲を密閉した後、薬を気化させて投



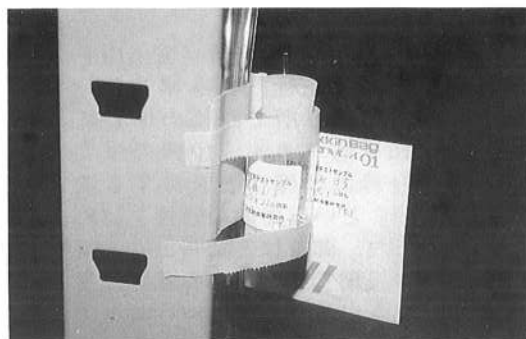
〔容積を調節するための風船〕

薬します。非常に危険な薬剤なので、投薬してからの1～2週間は中に入れ



〔ガスの注入〕

ませんが、貴重な資料に悪い影響はありません。投薬期間中は、ガスの濃度調整や周囲に漏れが無いかなど、こまめに調べ、周りにご迷惑のかからぬよ



〔効果確認用のサンプル害虫〕

うに細心の注意を払って行います。

博物館には多くの資料が収蔵されており、しかし一度に全部を燻蒸するのは無理なので年次計画を立て、必要な施設・資料の燻蒸を行っています。

平成6年度 活動報告

(平成6年9月～)

● おやし教室を開催

平成6年10月8日の土曜日、教育委員会、家庭教育学級の主催により、博物館付属施設の旧宮下家住宅において「おやし・おすいとん教室」を開催しました。



〔調理の様子〕

この教室の目的は、実際に自分たちの手で調理することにより、地域の伝統的な食文化を学ぼうとするものです。参加者の皆さんは出来上がったおやしを美味しく食べていました。



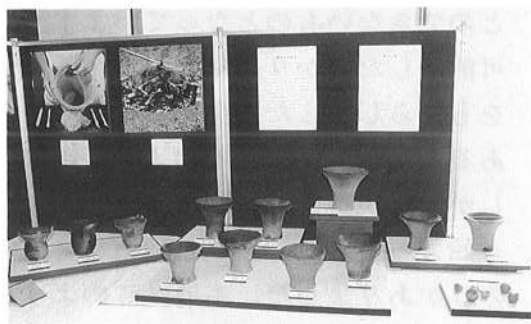
〔みんなで試食〕

● ビデオ映写会

毎月第2土曜日、博物館では昔話・民話等のアニメビデオを上映してきました。これからも引き続き上映をしていきますのでご期待ください。

● 「親子土器作り教室」作品展

8月の夏休みを利用して実施した「親子土器作り教室」では多くの参加者



〔作品展風景〕

がそれぞれ見事な作品を作り上げました。その成果を広く一般に観ていただくとして9月10～30日の間、博物館ロビーにて作品展を行いました。

● 甲斐絹展を開催



〔展示風景〕

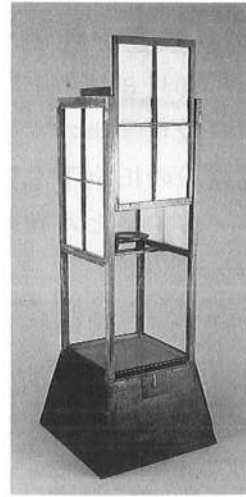
10月28～30日の3日間、郡内地域産業振興センターと博物館を会場に『マウント富士産業フェア』が行われました。この催しは県内の特産品を紹介するもので、博物館では甲斐絹展をはじめ、硯展・草木染展・書展・微笑仏展といった様々な展示を行いました。

～ 企画展から～

あかりのある暮らし

平成6年11月1日
～12月27日

『あかり』は現在の私たちの生活に欠かすことのできないものとなっています。夜の活動を可能にしたあかりは私たちの生活に大きな変化をもたらしました。今日の私たちは、あかりがあることが当然のことのように暮らしています。しかし、現在に至るまでには、火を得ることから始まって、試行錯誤と地道な努力のながい道のりがありました。本展はこのようなあかりについての知識と理解を深めていただくことを目的とし、人々の生活の中で用いられてきた様々な照明用具を「発火具と古代のあかり」「油のあかり」「ロウソクのあかり」「あかりの近代化」「あかりと信仰」の五つのテーマに分けて展示しました。



〔角行灯〕

富士山写真展・版画展

平成6年1月18日～3月16日

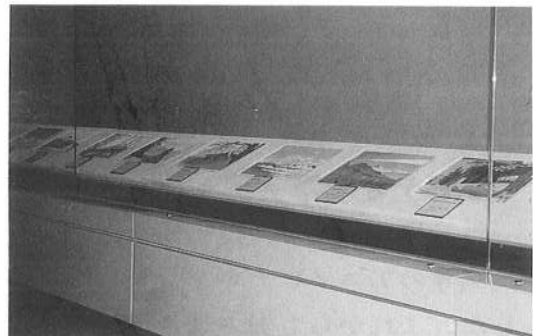
日本のシンボルである富士山は富士吉田市の顔でもあります。そこで、写真と版画をとおして四季折々の美しい富士山の姿と富士吉田市の恵まれた自然を市民をはじめ、県内外から訪れる方々に紹介し楽しんでいただこうと開催いたしました。

写真展は博物館で収蔵している資料26点(飯島志津夫氏・舟久保聖湖氏撮影)を廊下に展示し、企画展示室には「富士三十六景」(徳力富吉郎作)を展示しました。

これらの作品はいずれも四季折々の富士山とそれを取り囲む自然を表情豊かに鮮やかに描きだしており、来館者の目を楽しませていました。



〔写真展〕



〔版画展〕

平成7年度博物館行事予定

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	良寛と出雲崎 5/2～6/4		富士山と山小屋 7/1～8/31			市収蔵美術品展 10/7～12/3				雛人形と雛祭り 2/17～4/7	
	企画展記念講演会 5/14				土器作品展 9/1～9/10						
	桂川水系を歩く 6/11			縄文土器作り教室 7/30, 8/6, (13), 20							

企 画 展

● 全国博物館めぐり

～新潟県・良寛記念館

『良寛と出雲崎』

全国各地の博物館施設と歴史ある町を紹介する博物館めぐりを行います。

今回は（財）良寛記念館の協力を得て、良寛の生地であり、北国街道の要衝の地、また佐度への渡航地として栄えた出雲崎を良寛の遺墨を中心に紹介します。

また、企画展記念講演会もあわせて開催いたします。

● 『富士吉田市収蔵美術品展』

富士吉田市は市民の文化振興に寄与するための一環として、様々な美術品を収集しております。富士山を描いた絵画を中心に美術品の一部を紹介します。

● 『富士山と山小屋』

富士山は信仰のために登る山でした。山中には茶屋や室とよばれる山小屋が多数営まれており、古くから参詣者の利用に供されてきました。本展では、富士山信仰の隆盛を側面から支えた吉田口登山道の山小屋に焦点を当て、その歴史や信仰、普段の営みについて紹介します。

● 『雛人形と雛祭り』

市域における雛祭りは、女兒の祭りであるとともに婚姻習俗とも関わりながら行われています。本展では、市内で飾られていた雛人形を中心に展示し、あわせて市域の雛祭りの習俗を紹介します。

博 物 館 講 座

● 『桂川水系を歩く』

昔から富士吉田市に水の恩恵をもたらしてきた桂川は、当市の歴史との関りを知る上でも大切な自然であると言えます。現在も人々の生活に利用されている桂川を約8kmにわたり歩き、その歴史を学びます。

● 『縄文土器作り教室』

土器作りをとおして縄文人の生活・技術を体験してもらうことが目的です。粘土作りから始め焼き上げまで、当時行われていた方法で縄文土器を作ってみます。

☆詳しい内容のお問い合わせは、☎24—2411博物館学芸係まで。

お知らせ

●ビデオ上映会

毎月第2土曜日に昔話・民話などのアニメを上映しております。ご来館ください。

●博物館の利用について

施設の利用や館に対するご要望がありましたらお気軽にお問合せください。

●視察研修

博物館協議会委員による先進地視察研修が11月26・27日に行われました。視察先は静岡県富士市立博物館、島田市博物館、静岡市登呂博物館、静岡県立美術館の計4館を訪れました。

平成6年 月別入館者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般大人	249	262	563	508	979	623	823	1,987	625	785	559	269
一般子供	40	22	72	90	117	55	140	661	22	39	39	26
団体大人	10	127	152	611	1,817	833	709	813	674	962	538	184
団体子供	23	0	20	336	311	301	101	331	423	509	4	0
招待者	118	243	76	256	623	368	548	374	381	5,675	277	45
総入館者	440	654	883	1,891	3,847	2,180	2,321	4,139	2,125	7,970	1,417	524

年間総入館者数 28,911人

編集後記

月日が経つのは早いもので、もう1年が過ぎてしまいました。去年の反省点を見据えつつ、今年も頑張っていきたいと思います。平成7年度も様々な行事を予定しております。あいかわらずの忙しい日々ですが、これからもなお一層の努力を重ねていきたいと思っています。(FU)

博物館利用のご案内

- 開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
- 休館日 月曜日(祝日を除く)・祝日の翌日・年末年始
- 観覧料 大人 300円(240円)・小中高生 150円(120円)

()内は20名以上の団体料金

- ※見学時間は1時間30分位が適当です。
- ※団体で来館される場合は予めご連絡ください。
- ※毎月第2・4土曜日は小中高校生は無料です。
- ※市内に住む身障者(4級以上)は観覧料が半額になります。
- ※駐車場のご利用は午前9時～午後5時です。時間外のご利用はご遠慮下さい。